

# トラック輸送情報（平成16年9月分）

平成16年12月 6日  
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
担当：高橋、荒木 内線28315  
直通：03-5253-8342  
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

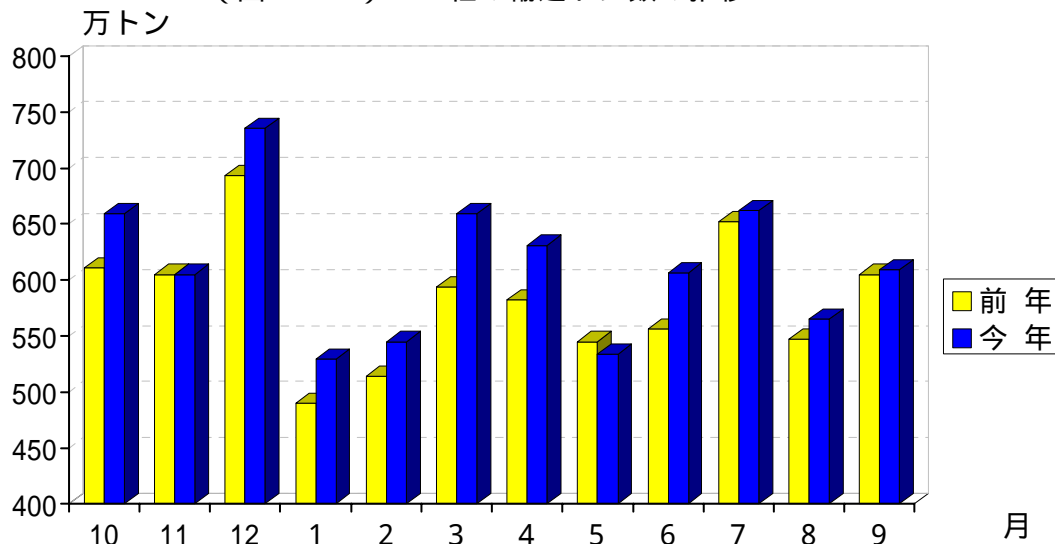
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の概況

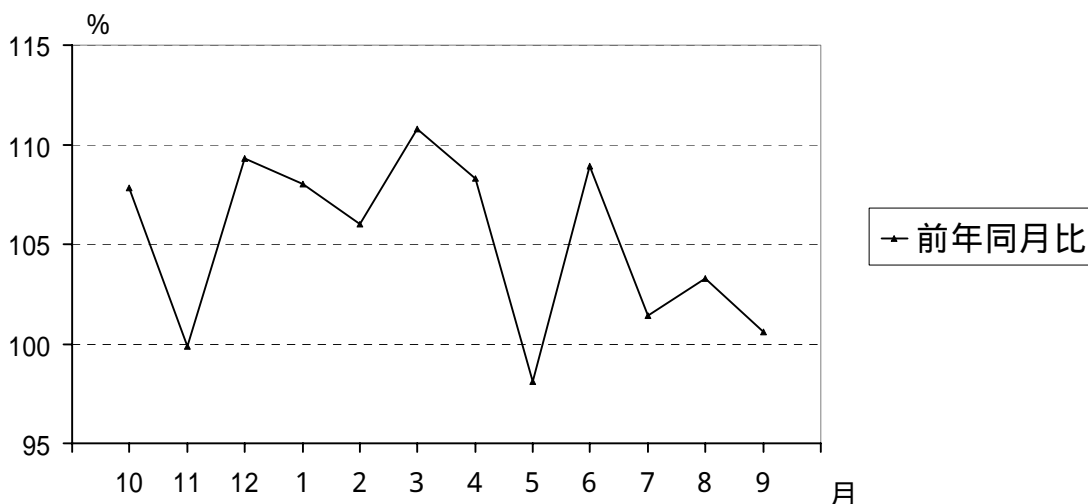
調査対象32社の本月の輸送量は、6,087,261トンで、前月と比べ、総輸送量が約44万トン増加したため、前月比107.7%（季節調整済み99.9%）、前年同月と比べると、約4万トン増加したため、前年同月比100.6%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.7日で、前月と比べ、0.3日の増加、前年同月と比べると、0.1日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、256,846トンで、前月と比べ、約2万トン増加したため、前月比106.4%、前年同月と比べると、約4百トン増加したため、前年同月比100.2%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 32社の輸送トン数の推移



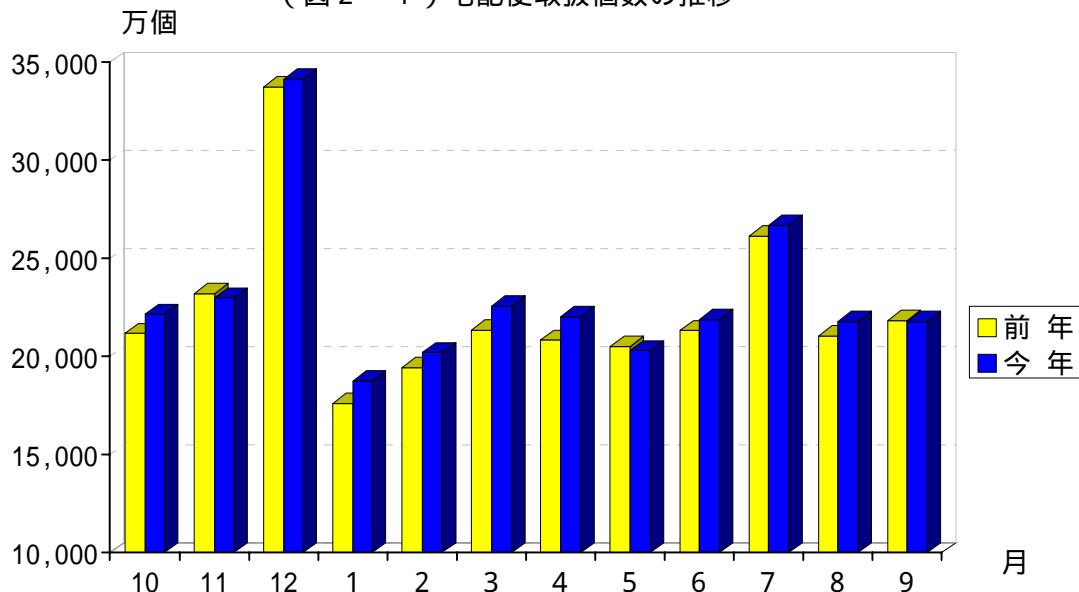
(図1-2) 32社の輸送トン数の前年同月比



## ( 2 ) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、218,054千個で、前月と比べ、約 3千個減少したため、前月比 100.0% (季節調整済み 98.6%)、前年同月と比べると、約 47万個減少したため、前年同月比 99.8%の実績であった。(図2 - 1、図2 - 2 参照)

( 図 2 - 1 ) 宅配便取扱個数の推移



( 図 2 - 2 ) 宅配便取扱個数の前年同月比



## ( 3 ) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、8月が夏期休暇等により輸送量の減少があったこと、また、9月の中間決算期による輸送需要が増えたことから、全体的に輸送量の増加がみられた。理由としては、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増を主な理由としている。また、化学工業品ならびに食料工業品は新規荷主獲得による貨物増もみられた。農水産品は収穫期による貨物増があった反面、台風の被害による貨物減が見られた。地域的には、農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に輸送の増加が見られ、農水産品は北海道、東北、九州から関東方面への輸送が増加がみられ、中国で減少がみられた。

前年同月と比べると、全体的には輸送量がほぼ前年並みではあったが、品目ならびに調査事業者により輸送の増減にばらつきがみられた。特に、9月の気温が平年よりも高かったことにより、飲料、青果物、衣料品輸送の増加がみられた。理由としては、ほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増、貨物減を主な理由としている。地域的には農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に、機械、化学工業品、食料工業品は増加、日用品、その他は減少がみられた。農水産品は北海道、東北等から関東方面への輸送が増加がみられたが、中国地方では台風の被害があったことから減少がみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因			
	著増	増	変らず	著減						
前月に比べて	農水産品	1	5	9	1	1	野菜、果物	北海道、東北、九州、関東	4,8	
								野菜	中国	4
	金属製品	1	9	15	1			その他の金属製品	兵庫、東京、神奈川、大阪	4,8
								建築用金属製品	北陸信越	4
	機械	2	13	12				その他の機械、機械部品、家電品	神奈川、愛知、東京、関東、大阪、兵庫、中国	4,5,8
	化学工業品		15	13				その他の化学工業品、塗料	大阪、関東、神奈川、中国	1,4,7,8
	繊維工業品	2	9	17				繊維、織物、	神奈川、中国、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫ほか	4,8
食料工業品		17	10				加工食品、その他の食料工業品、飲料	関東、東京、大阪、中国、福岡ほか	1,4,5,7,8	
日用品	2	12	13	1			印刷物、玩具、娯楽用品	関東、大阪、近畿、神奈川ほか	4,5,7,8	
							その他の日用品	北海道、東北、関東	7	
その他	1	8	15	3			百貨店配送品、宅配貨物	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫、全国	4,7,8	
							百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、関東、大阪、全国	2,8	
前年同月に比べて	農水産品		4	10	2	1	野菜、果物	北海道、東北、関東、九州	8	
								野菜、果物	中国	4
	金属製品		3	20	3			その他の金属製品	東京、神奈川、大阪、兵庫	9
								その他の金属製品	北陸信越、関東、中部、近畿	4
	機械	1	5	20	1			機械部品、家電品	関東、近畿、北陸信越ほか	4,9
	化学工業品		8	15	5			その他の化学工業品、樹脂、塗料	大阪、神奈川、関東、兵庫	4,7
								その他の化学工業品	神奈川、東京、関東	4,7
	繊維工業品	1	3	22	2			繊維	東京、神奈川、大阪、兵庫	9
								繊維	神奈川、北陸信越	4,9
食料工業品		8	16	2	1		飲料、加工食品	東京、関東、神奈川、大阪、兵庫	4,5,7	
日用品		5	16	6			その他の日用品、印刷物	東京、神奈川、大阪、兵庫、近畿	4,9	
							印刷物、衣服	関東、北海道、近畿、九州、全国	2,4,5,7,9	
その他		4	18	5			百貨店配送品、宅配貨物	東京、神奈川、大阪、兵庫、全国	4,9	
							百貨店配送品、宅配貨物	神奈川、関東、大阪、全国	2,7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域 [全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1.新規荷主獲得(荷主契約解除)	6.倉庫へ入る貨物増(減)
	2.デパート、スーパーの貨物増(減)	7.倉庫から出る貨物増(減)
	3.他機関から貨物が来た(へ流れた)	8.季節的需要増(減)
	4.工場・生産地からの貨物増(減)	9.景気の好況(不況)
	5.商社・問屋からの貨物増(減)	10.その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 852社 / 調査対象事業者数 1,082社）の輸送量は、前年同月比 100.3%、前月比 105.5%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	100.3%	99.4%	100.2%	102.6%	97.9%	101.3%	101.8%	101.4%	102.7%	98.6%	102.8%
前月比	105.5%	107.9%	103.4%	103.8%	106.0%	106.4%	104.4%	110.0%	104.1%	103.5%	98.5%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、収穫期等により農水産関係品で増加がみられたことと、各種工事が引き続き好調に推移したことによる「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が順調に増加した。このため、対前月比107.9%となった。一方、対前年同月比は99.4%とほぼ平年並みであった。今後の見通しは、農産物の収穫期、工事の追い込み時期等から関連輸送が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、農繁期にさしかかったことから「穀物」「野菜・果物」等の輸送量増加、また公共工事が増加したことにより「砂利・砂・石材」の輸送量増加という報告がみられた。このため対前月比は103.4%、対前年同月比は100.2%であった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともにやや上昇傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、前月よりも稼働日数が増加したこと、また、決算期による需要増もあり、対前月比は103.8%、対前年同月比は102.6%となった。今後の輸送見通しは、一部地域で農産物収穫期終了等が見られるため、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、原油高騰により石油関係品目の輸送が減少したものの、前月がお盆休みの影響で稼働日数が減少していたこと、また、収穫期を迎え「穀物（米）」の輸送が増えたことから対前月比106.0%とプラスとなっている。対前年同月比は97.9%とマイナスとなった。今後の輸送見通しについては、次月は横ばい、以降はやや上昇傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、海上の悪天候により「水産品」の水揚げ減少、携帯電話部品の生産調整に伴う「機械」の輸送量が減少したものの、稼働日数が前月より多かったことにより、全体的には対前月比で106.4%と増加した。また、対前年同月比についても101.3%と若干増加した。次月及びここ当分の見通しについては若干の増加が見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比104.4%と、夏期休暇等により減少していた輸送量が回復している。また、決算期による需要の増加もあり、全体的に増加した。品目別では、台風の影響による「金属製品（サッシ・ドア・シャッター等）」が増加、季節的商品の「日用品」の増加も目立っている。対前年同月比でも101.8%と増加となった。今後の見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、前月に引き続き大型台風の影響により稼働日数の減少がみられたものの、季節的に収穫時期である「穀物」の輸送量が増加したこともあって、対前月比110.0%と増加傾向にある。対前年同月比についても、101.4%と増加の傾向がみられる。ただし、今後の輸送の見通しは次月及び次月以降も減少傾向にあり楽観視することはできない。</p>
四国	<p>今月の輸送は、対前月比104.1%、対前年同月比102.7%の増加であった。収穫期等季節的需要により「野菜・果物」「化学肥料」「食料工業品」が、建設関係の需要により「セメント」「その他窯業品」の増加が見られた。また、相次ぐ台風の被害により「廃棄物」は増加、「野菜・果物」は減少が見られた。今後の輸送の見通しはほぼ横ばい傾向にある。</p>
九州	<p>今月は、二度の台風の影響により、品目によっては輸送量が大きく落ち込んだものがあったが、稼働日数が前月より多かったためか、輸送の感触としては全体として増加したと捉えた事業者が多かった。「野菜・果物」「水産品」は台風及び猛暑の影響による輸送量減、「機械」「セメント」は工事件数の増加による輸送量増、「食料工業品」は新製品の発売や、猛暑の影響により需要が高まったことによる輸送量増。このため、対前月比は103.5%、対前年同月比は98.6%となった。今後の輸送量の見通しは、わずかながら増加する傾向のようである。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「野菜・果物（ゴーヤー）」「その他の農産物（切り花）」の減少に加え、季節的需要の「紙・パルプ（ロール紙、段ボール）」「取り合せ品（引越貨物）」「食料工業品（水、ビール）」の減少が目立った状況となった。主な理由として、台風による移入貨物の停滞が影響を及ぼしたため、輸送量全体が減少しているものと思われる。このことにより対前月比は98.5%、対前年同月比は102.8%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともに減少傾向が見込まれると予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	6	1	1	0	0	3	0	1	0	13
	減	1	1	0	1	1	0	0	0	2	0	6
2. 野菜・果物	増	8	6	2	1	0	0	0	1	3	0	21
	減	0	2	3	0	0	0	0	3	8	1	17
3. その他の農産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
5. 水産品	増	6	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8
	減	0	0	0	0	1	0	1	0	5	0	7
6. 木材	増	3	0	1	4	0	0	2	0	2	0	12
	減	4	0	0	0	1	0	1	0	2	0	8
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9. 金属鉱物	増	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	16	3	0	1	0	0	2	0	0	0	22
	減	4	0	1	2	0	0	2	0	2	0	11
11. 工業用非金属鉱物	増	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
12. 鉄鋼	増	0	0	2	0	0	1	3	0	2	0	8
	減	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	4
13. 非鉄金属	増	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
14. 金属製品	増	1	1	1	1	0	2	1	0	1	0	8
	減	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	5
15. 機械	増	1	0	2	1	0	2	1	1	4	0	12
	減	0	1	2	1	1	0	0	0	1	0	6
16. セメント	増	1	2	0	1	1	1	2	1	6	0	15
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
17. その他の窯業品	増	1	1	0	0	2	1	2	1	0	0	8
	減	0	1	1	2	0	0	0	0	1	0	5

品目	運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
	増	減	海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			越							計
18. 揮 発 油	増		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増		0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減		1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	6
20. コークス その他の石炭製品	増		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化 学 薬 品	増		1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
	減		0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3
22. 化 学 肥 料	増		3	0	1	0	0	0	0	2	1	0	7
	減		2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
23. その他の化学工業品	増		0	1	0	1	1	2	0	0	1	0	6
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24. 紙 ・ パ ル プ	増		1	3	2	1	0	1	1	2	3	0	14
	減		0	1	0	0	1	0	2	0	0	1	5
25. 織 維 工 業 品	増		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食 料 工 業 品	増		2	10	2	2	0	1	0	3	7	0	27
	減		3	6	1	1	0	0	3	3	5	1	23
27. 日 用 品	増		3	1	1	0	0	3	0	2	2	0	12
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
28. その他の製造工業品	増		0	1	0	0	1	1	0	1	4	0	8
	減		0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
29. 金 属 く ず	増		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増		2	1	1	0	0	0	0	0	3	0	7
	減		2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
32. 廃 棄 物	増		0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
	減		1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
33. 輸 送 用 容 器	増		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取 り 合 せ 品	増		0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
	減		0	1	0	0	0	2	0	1	1	1	6
35. そ の 他	増		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	減		0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2